

令和3年度 諸塚村農林業ビジネス インターンシップ事業



諸塚村 2021.4.1

今、なぜ山村なのか？

～宮崎県諸塚村の取組と課題

- ▶ 九州山脈中央に位置する旧高千穂郷
- ▶ 人口1,542人 692世帯
- ▶ 面積18,759^{ヘク}_{タール}
- ▶ 林野率95%の山間に84集落が点在

Morotsuka
Access



<https://www.vill.morotsuka.miyazaki.jp/>

諸塚村の村づくりの特徴は？

- ▶ **林業立村** ～「森林理想郷」を目指す村づくり
明治40年(1907年) 村是で宣言
家族労働による小さな循環型経済が主流
人を育む自然を大事にする ～経済性より社会性を重視
 - ▶ **自治公民館制度** ～相互扶助の原則
昭和23年(1948年)～伝統文化と集落を守る
相互扶助の精神が自立を促し、人材を育てる
 - ▶ **小規模自治体ならではの産学官民の連携**
量を補う、人材の質と連携の組織力と社会運動力
- **経済への依存ではなく、人や森林資源など山村の地域の力を活かす手法を重視**



諸塚村民文
諸塚の自然と相生の



諸塚村産直住宅
FSC®森林認証
FSC®しいたけ
世界農業遺産認定
J-クレジット制度
櫟の森づくりPJ-櫟地蔵
諸塚どんぐり材PJ
森の古民家
エコツーリズム
「やまで学校しよう！」
森のエコスクール
企業との包括連携協定

FSC®森林認証って？

20世紀末に地球規模で環境汚染、地球温暖化、資源の枯渇等の環境保護の重要性の高まり

⇒循環型社会への転換が世界的な課題と認識

1992年 リオ地球サミット

～環境マネジメントシステムISO14000ができる

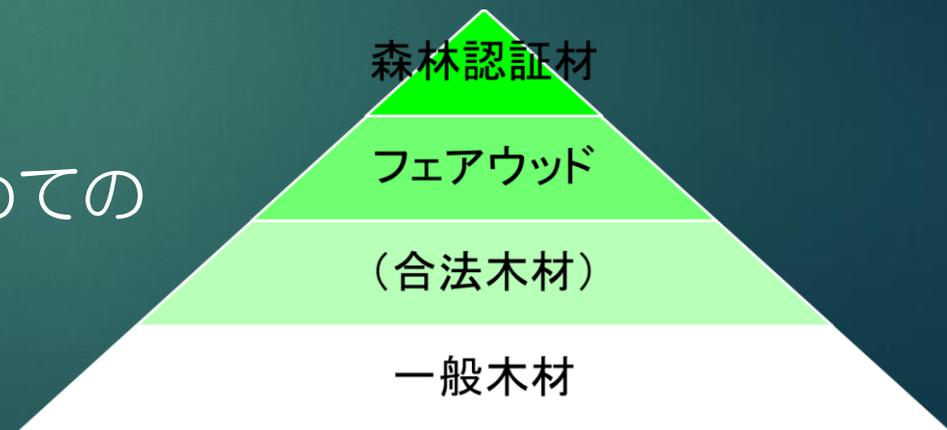
1993年 カナダ大会

FSC® (Forest Stewardship Council 森林管理協議会)

★木材の環境ブランド化

2004年諸塚村は日本で初めての
村ぐるみでの取得に成功

「森林認証の村」



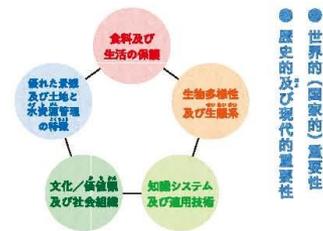
世界農業遺産に認定 2015.12

世界農業遺産とは

世界農業遺産は、2002年（平成14年）、食料の安定確保を目指す国際組織「国際連合食糧農業機関（本部：イタリア・ローマ）」によって開始されたプロジェクトです。創設の背景には、近代農業の行き過ぎた生産性への偏重が、世界各地で森林破壊や水質汚染等の環境問題を引き起こし、さらには地域固有の文化や景観、生物多様性などの消失を招いてきたことが挙げられます。

世界農業遺産の目的は、近代化の中で失われつつあるその土地の環境を生かした伝統的な農業・農法、生物多様性が守られた土地利用、農村文化・農村景観などを「地域システム」として一体的に維持・保全し、次世代へ継承していくことです。

国際連合食糧農業機関 (FAO)
Food and Agriculture Organization
世界農業遺産 (GIHAS : ジアス)
Globally Important Agricultural Heritage Systems



世界農業遺産の認定基準

● 世界的（国家的）重要性
● 歴史的及び現代的な重要性

が推進する世界遺産が、遺跡や歴史的建造物、自然など「不動産」を登録し保護することを目的としているのに対して、世界農業遺産は、地域のシステムを認定することで保全に努めていくことを目指しています。

世界農業遺産は現在、(2018年11月時点)

21カ国54地域、日本では11地域が認定されています。

- | | | | |
|---|-------------|--|-------------|
| 1 石川県 能登地域
能登の黒山風海 | 認定:2011年6月 | 7 岐阜県 長良川上中流地域
清流長良川の鮎 - 黒川における人と鮎のつながり | 認定:2015年12月 |
| 2 新潟県 佐渡市
トキと共生する佐渡の黒山 | 認定:2011年6月 | 8 和歌山県 みまべ・田辺地域
みまべ・田辺の樹システム | 認定:2015年7月 |
| 3 大分県 国東半島半島地域
クヌギ林とため池がつつぎで育良半島・半島の農林水産資源 | 認定:2013年5月 | 9 宮城県 天崎地域
狩猟可能な水田農園を支える「大崎土」の伝統的水管理システム | 認定:2017年11月 |
| 4 熊本県 南進地域
阿蘇の草原の精神と持続的農業 | 認定:2013年5月 | 10 静岡県 わさび産地地域
静岡わさびの伝統的産地 - 静岡の地が伝へる人とわさびの歴史 | 認定:2018年3月 |
| 5 静岡県 茶草場農法
静岡の茶草場農法 | 認定:2013年5月 | 11 徳島県 にし阿波地域
にし阿波の伝統的農耕システム | 認定:2018年3月 |
| 6 宮崎県 高千穂郷・椎葉山地域
高千穂郷・椎葉山の山間地農林業複合システム | 認定:2015年12月 | | |



継承すべき宝

だから

「高千穂郷・椎葉山地域」が
評価された8つのポイント

- 1 環境に優しいFSC。森林認証の広葉樹と針葉樹の混交林「モザイク林相」
- 2 公立中高「貫校・五ヶ瀬中等学校や、公的農林業事業体・ウッドピア産地の人材育成
- 3 木材、蜂蜜、畜産、茶業、高冷地園芸等の複数の作物を組合せる「農林業複合経営」
- 4 民意の結集である「自治公民館制度」の充実
- 5 力強い地域コミュニティに伝承される「神楽」
- 6 絶滅危惧種の希少植物が多く残る「生物多様性の森」
- 7 伝統的な「焼き畑」農業の維持
- 8 地域コミュニティで維持される500以上の「かんがい排水」

諸塚村の魅力



地域の特性を活かした諸塚村の暮らしは、次世代に継承すべき宝

諸塚村の暮らしは、山間地の厳しい環境で、決して効率的とは言えませんが、美しい自然や地域に根づく伝統文化を大切に、人々は自然と寄り添い、互いに助け合いながら暮らしてきました。

そうした営みは、地域コミュニティを力強いものにし、諸塚村民が積極的に関わり、自治公民館制度や「神楽」などの伝統文化が絶えることなく今日まで受け継がれてきました。

そして、世界農業遺産認定という世界に誇れる評価は、先人たちの遺産です。今後も、地域の特性を活かした村づくりを続け、持続可能な農林業複合を実践し、次の世代に繋げることが、私たちの重要な責務と考えています。

インターンシップの内容は？

- 従来の事業＝正解、解答のある課題に取り組み
知識や技能を得る



- ミッション：アクティブラーニング
 - ・正解のない課題に取り組むことで、多様な中山間地域の課題に主体的・協働的に問題を発見し、解決能力を持つ人材を育成し、関係人口形成につなげる
 - ・正しい答えを導くのではなく、答えにたどり着くまでの過程（プロセス）を重視し、地域住民に対し、机上の「絵に描いた餅」ではなく、実践に即した「使える対策」を求める

社会的課題をベースにする 「世界の目標を行動指針に」

地域や企業の課題を解決する手法には
社会的な指針の活用が有効



持続可能な開発目標 **SDGs**

(Sustainable Development Goals)

ESG課題を考慮した対応

[環境(Environment)・社会(Social)・ガバナ
ンス(Governance)]



農林業ビジネスインターンシップ

コース

- ① F S C 林業を極めるコース（林業ビジネス）
- ② F S C 椎茸生産コース（特用林産ビジネス）
- ③ 立体園芸・高冷地農業コース（農業ビジネス）
- ④ 中山間型畜産コース（畜産ビジネス）
- ⑤ 食×農6次産業コース（地域資源活用ビジネス）
- ⑥ 地域おこし農林業政策コース（地域振興事業）

課題設定例：人口減少対策

日本全国で超高齢化、人口減少が進む
⇒自治体としてなすべき課題は、人口増加策か？

【小人力】



少ない人口でも、質や連携強化で対応できる
人づくりの重要性

～個の役割を明確にし、目指す方向の認識を共有

★人財の量より質を重視

★組織論、運動論による解決を図る

